
MOLOCHs
純粋培養レズビアンと邪淫の神族
モレクの虜
VICTIMS
予期せぬエラーでまさかの聖婚


痛っ
もう…
オーガスタは
すぐ走るから
みせて
わたしが
舐めてあげる
でもフシギね
オーガスタのケガは
すぐ治っちゃう
ほらもう
治った


でもね
好きな人同士は
こっちを舐めるん
だって
口と口？
そうだよ
…ああ
オーガスタ
あなたの
目の色は
勿忘草の
花の色
エグザビア
血の味がする
うふふ


エグサビア…
胸騒ぎがする
長らく接触も信仰も
禁じられた
邪教の神族に
私たちがなぜ…
涙の国…
モレクの城塞に
今いるのは
二柱の獣…


邪神が二人…
この国の
王様も二人
王様の命令で
邪神の元に
遣わされる
私たちも二人
どういう事だと
思う…？
私たち
ずっとふたりで
良かったのに


いやな
予感がする
私たち
引き裂かれて
しまいそうで
そんなことないよ
オーガスタ
このお勤めを
果たしたら
私たちきっと
何かのお役に
立てるのでしょうから


この道標の先は
立ち入り禁止区域
南に見える
あの台地へ
お進みください
我々が
お供できるのは
ここまでです
ありがとう
ございます
ここかな？
涙の国の
入口
たぶん
この親書を
ここの主に
渡せばいいって
渡したら
帰ろう
……
誰かいるようには
見えないんだけど……


ビッ!!
セス
書簡を読まずに
棄てるのか
どうせ嘘八百書いて
あるんだから
読む必要なくね
そもそも
百年も前に
断交したのは
あっちだし
この女たち
北の道標まで
分隊程度の騎馬兵が
随伴していた
囮じゃないのか
普通に考えて
だから北口は
埋めとこうって
言ってるのに
北口を開いておくのは
先代モレクの厳命だ


そんな重要な書簡なら
こんな小娘だけで
寄越さんだろ
舐めてんのか？
右王左王とやらは
バアルよ
直に訊くのが
一番だぜ
「彼ら」を見るなり
体が動かなく
なった…


棄て子にしては
育ちすぎだし
追放者にしては
若すぎる
衣類も上等だ
くっ
だから
書簡を
読めと
だが
嫁に出すには
丁度いい
ハア⁉
…王の勅命で
派遣された使者と
名乗る割にはその
「王の貌」が視えない
読み取れるのは
隔離されて
育てられた
無垢の乙女
ただ
それだけ


神聖娼婦は
廃れた風習の
はずだがな
ウキ


エグザビア…
エグザビア!!
煩いな
こいつ
生贄に捧げられる
為だけに
育てられた女
つまるところ
我々への
奉納物だ
全ての条件を揃えた
選り抜きの女を
寄越すからには
女として扱えと
いう事だ
これらが生まれた
その時から
十数年かけて仕込んだ
囮か罠かどうかは
程なくわかるだろう


やめろ…！
エグザビアに
乱暴するな‼
はーっ
不審者は
お前らの
方なの
ぐっ
体が…！


い
あ
あ
あ…！
力を抜け


…？…
ぐっ
何を…
い…嫌…！
やめ……!!
あッ…
ぐうゥ…
ぐぐ
ぐぐ
……！
体が中心から
……
二つに裂けそう！


無垢のまま
供されるとは
憐れなものだな
ぐうっ
だがお前は
美しい
オーガスタ…
見ないで…

ああなるほど
でもうまくいったこと
ないだろ

だいたい女の体が
耐えられないから
気が進まないん
だよな

まあ試す価値は
あるか

!?

はなせ!!

そもそも「アレ」は
なんなんだ!?!!

何って…
見て判ら
ないのか？

？

子作り
だが

乱暴するなら
私だけに…

ハァ
ハァ

ハァ

オーガスタに…
酷い事
しないで


お願い…
お前はわが身より他者を重んじる健気な娘だ
俺の子を産め
えっやだ
エグザビア…
エグザビア！


ひえっ!?
えぐっちょぐちょなんだけど
お前あっちのコが好きなのか
っ…触るなっ…
ぬこ
ぬこ
ぬこ
ぬりぬり
うわわ…やめ…
女同士好きあってる割には全然性知識無いしなんだこれ
よいしょ
♪
ぐっ
ずっぷ
いろんな人間がいるなあ～…


エッ
オーガスタ!!
その娘も駄目か
いやこいつはこういう事自体理解できないらしい
ばちゅん
ばちゅ
ばちゅ
…というか「男」に触れる機会がなかったみたいだ
父親や男兄弟の存在さえ知らない
だから男女で「こういう事をする」という事もわからない


二人だしちょうどいい
こいつら嫁にできたらいいのにな
邪心もないし女同士揉める事もなさそうだ
ぐっ
ぐうっ
ずっ
ズッ
ズッ
ズッ
まー死ぬ可能性の方が高いけど
ひェ…
やだ…やめてえっ
それ抜いてぇっ!!


こうすることでお前は俺の子を孕む
お前の肉体が我らの血を拒まなければ
ドクン
嫌あッ!!
ビクッ
ビクッ
うっそこいつそっちのコを「寝取られた」と思ってる…
何言ってるかわかんねーけど


お前も
孕むんだよ
ばけものっ…
ガリ
俺の子をさ
痛ってえな
バカ
こっちの
思うつぼ
だぞ
これで死ななけりゃ
お前も俺たちと同じ
ばけものに
なるんだよ

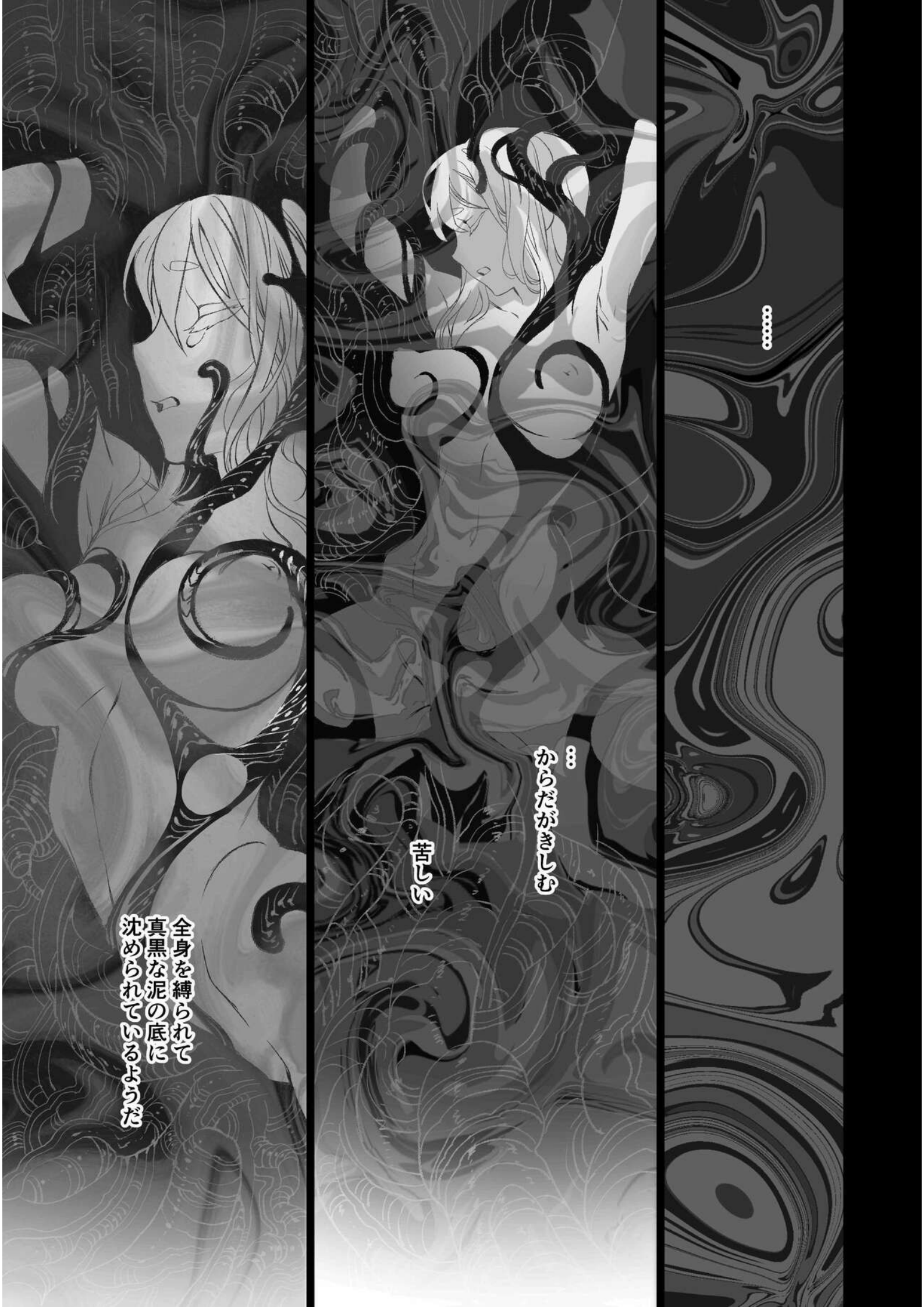

ガリッ
血の味のするキス
大好きな人としかしないことなのに
…お前が運命の女だといい

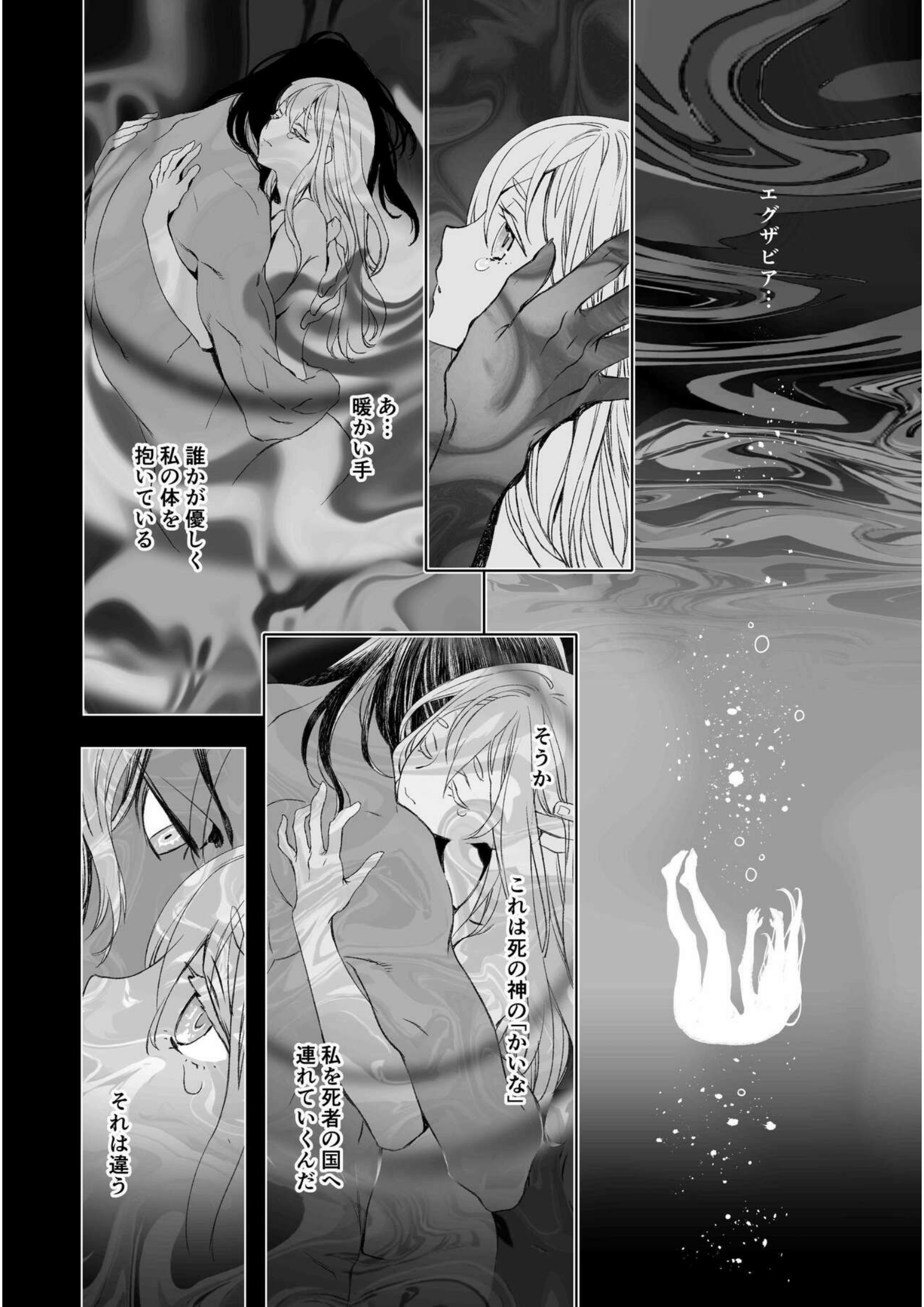


あ…
勿忘草の
花の色の眼

オーガスタと
同じ

どうして…


……
…からだがきしむ
苦しい
全身を縛られて
真黒な泥の底に
沈められているようだ


エグザビア…
あ…
暖かい手
誰かが優しく
私の体を
抱いている
そうか
これは死の神の「かいな」
私を死者の国へ
連れていくんだ
それは違う


お前は
新しい千年の
命を得た
お前は
我が女神
！
…どこだろう
ここは
神殿のような
大きな
闇のような……


どれくらい
経ったんだろう
…まだ生きている
いつの間にか
豪奢な腕輪に足輪
カラダが…
つくりかえられて
いる


これが…
私の体…？
オーガスタは…？
目覚めたか
あ…
「涙の国の主」…！
ひえええ
こっち来た
ニェッ
て…
抵抗
できない
やはりお前は
美しい
近い近い
こわい
隠せて
ない!!


お前は奇跡だ
あ…やっぱり
オーガスタと同じ
勿忘草の花の色
我々は血を分け与えて
繁殖する
だがたいていの人間は
肉体の変化に耐えられず
命を落とす
お前は耐えた
わが子を宿す
肉体への変化に
まるで
愛欲の女神の
肉体だ


は？
そういうホメ方されてもまったく嬉しくないし大体あんたのせいでこんなことになってるんでしょうが
だがすでに我々は交合した
！
お前はこの肉体で我々と同じ永遠の若さを得る
やだ…
は…離して…
つ
つ
ぐぐ
ぐ
もだ
もだ
もだ
つぷ
ビク
ビク


ここで
俺の男根を受け容れ
この腹で
俺の子を宿し
この乳房で
俺の子を育む
や…
わっ
私はあなたの
赤ちゃんなんか…
我が子を孕み
身重のお前も
きっと美しい
聞いちゃいない!!
なんだそれ!


これはお前自身の欲望を映し出した肉体だ
う…うそだ!!
見事な乳房
よい母乳が出そうだ
ひ…ひとを家畜みたいに
む…無理やりおとなのからだにさせられただけなのに
くるしいはずかしい
おとなの男があかちゃんみたいな真似しないで…!


ここを通って赤子が腹から出てくる
交合するために体が備えてる
体の内側から蜜が溢れている
ここが女のペニス
そんなところ舐めるの!?
ファッ!?
俺のも触れてみろ
えっ
これでお前の子種を注ぎ込む
怯えなくていい二度目だ
ひぃぃぃぃぃぇぇぇぇぇ


俺はお前のつがいの牡
バアルだ
あ…また
あの肉の塊が私の体の中に戻ってくる
恐ろしい
ん…
ズプ
ズプ


…男根が根元まで全部入ったぞ
みち・・・
あれ？いたくもくるしくも…


そのための体だ
や…嫌だ…


う…
動かないで
動かなければ
終わりもしない
ずっと
つながったままだ
や…
それもいい
お前の腹の中は
暖かい
俺とお前の赤ん坊が
羨ましい
こんなに悲しいのは…そう
オーガスタ
どこにいるの…？
生きているの…？
私怪物に孕まされて
怪物のお母さんにされそうに
なってる…！


こんな浅ましい姿
きっとオーガスタは
私だと気付いてくれない
いいえ…
たとえ気付いて
くれたとしても…
「穢らわしい」
いや…
オーガスタを失ったら
なんにも失うものなんて
ないのに
ばけものののからだに
つくりかえられて
わたしのからださえ
わたしのものでなくなって


私にもう失うものがもうないからこんな目に遇ってるの…？
ぱちゅっ
ぱすっ
ぱちゅ
怖いこわいよ
ぱちゅっ
繋がってる部分頭以外の全身が悦んでる
やだあっ
オーガスタを失うことがこわい
赤ちゃん産みたくない
戻れなくなってしまう
私も怪物になってしまう
だめえっ！


なのに…
ビュッ
ビュッ
ビュッ
…初めての絶頂だな
はっ
…よく耐えたいい子だ
ハァッ
は…
…ザビア…


さっそく
やってんじゃん
同化すると
育つって
ほんとなんだ
角生えてないけど
大丈夫なの？
睨むなよ
こいつがその子に
会わせろって
煩いからさあ
な!!
や…


お…オーガスタ…
私を見ないで…
お願い
私を
嫌いにならな…
あ…ほんとだ
オーガスタ
角生えてる
いいねえ
乱交向き！
人間の女
二人しかいないうち
二人同時に同化するって
奇跡の確率なんだぜ
たいてい死ぬから
やっぱり
二人でいる方が
しおらしいんだな


あなたの美しさは
心で感じられる
ものだけだと
思ってた
でも…
肉の欲に溺れる
今のあなたも
地母神のように
美しい…！
あ…！
私もう人間じゃ
なくなっちゃった
から
それはあなたも
同じでしょう
エグザビア
この世で一番
浅ましくて
美しい姿


今
わかった
あなたをどう
愛したかったのか
私の子をあなたに
産んでほしかった
私の子種であなたを
孕ませたかった
女としてではなく
牡として
あなたを
欲のままに
犯したかった…
今あなたを
犯している
男のように
あ♥あ♥あ


はーっ
お前にチンチン
ついてない
でしょうが
やめて…
女のコは
こうすんの
おまえも
こっち
つぷ
ぷ
ぷ
う…ぐ
オーガスタ…！


此方も動くぞ
や…やめ…！
あッ
ﾊﾟﾝﾊﾟﾝﾊﾟﾝﾊﾟﾝ
あっ
あ!!
あッ
あ!?
見なよ
あのコは完全にあいつのもんだ
…ガスタ
オーガスタ


わたしも
きっと
あなたと
こうした
かった
それにね…
私はあなたの
おかあさんに
なりたかった
私は
あなたを…
産みたかったのかも
しれない…！
エグザビア…！


WTH…
大好き…！


…お前は
ずっと
その娘の
事だけを
考えている
ちょっと
ちょっと
勝手に
盛り上がるの
やめてくんない？
くっ
離せっ
そうよ
オーガスタさえ
生きていれば
あなたがたなんか


…女は
女と
本質的には
番いになる
ことはできない
女だけでは
仔を生せない
からだ
一代限りの
慰めだ
ぐっ
はっ
じゃあ言わせて
もらうけど
はっ
はっ
に…人間が
化け物の子なんか
産めるわけないでしょ
こんなところ
さっさと
逃げ出して…
多分もう
人間じゃあ
なくなってるから
逃げても意味
ないよ


あんまり虐めるのやめようぜ
ハニトラですか
これだから人間はって最初は思ってたんだけどさ
こうなっちゃったからにはもう…ネ！
喧嘩なんかするよりみんなで愛し合って生きようよ
ふざけるな
私たちはずっと生まれた時からお互い二人きりだったんだ
それを貴様らばけものなどに踏みにじられてたまるものか
フッ
フッ
フッ
フッ
生まれた時からずっと二人って俺たちと一緒なんだけど
丁度いいじゃん何の問題があんの？
それにだ


こいつってなんか
バアルに
似てるんだよな
…
こいつはあっさり
変化したから
おかしいと思った
んだよな
そっちのコなんて
悶死しかけた
のにさ
ズ
あぐっ
ぐっ
ポ
んぐっ
薄い群青に
金色の虹彩
まず間違いないぜ


どこで仕込んだか
知らんが感謝するぜ
ぐっ
ううっ
オーガスタと
同じ
勿忘草の
花の色の…
百年待った
完璧な女だ
……
……まさか……
ズブッ
ズブッ
ズブッ



確かに親が誰かも
何も知らない
頭が
破裂しそう






それは
わからん
だがお前は
俺の最初の
つがいだ
百年待った
花嫁
繋がった部分が
疼く
あ…だめなのに
勝手に腰が
動きはじめる
このかみさまの
赤ちゃんを子宮が
ほしがってしまってる
美しい私の
オーガスタ
あなたはこの
かみさまの
娘なの？
このかみさまが
ほしがってる
私の赤ちゃんは
あたらしい
かみさまの子で
私は……
…お前の
頭の中は
騒々しくて
愛らしい
え…


あ
あ
あ
あ
あ



器は完成している
あとはお前の
心を寄越せ

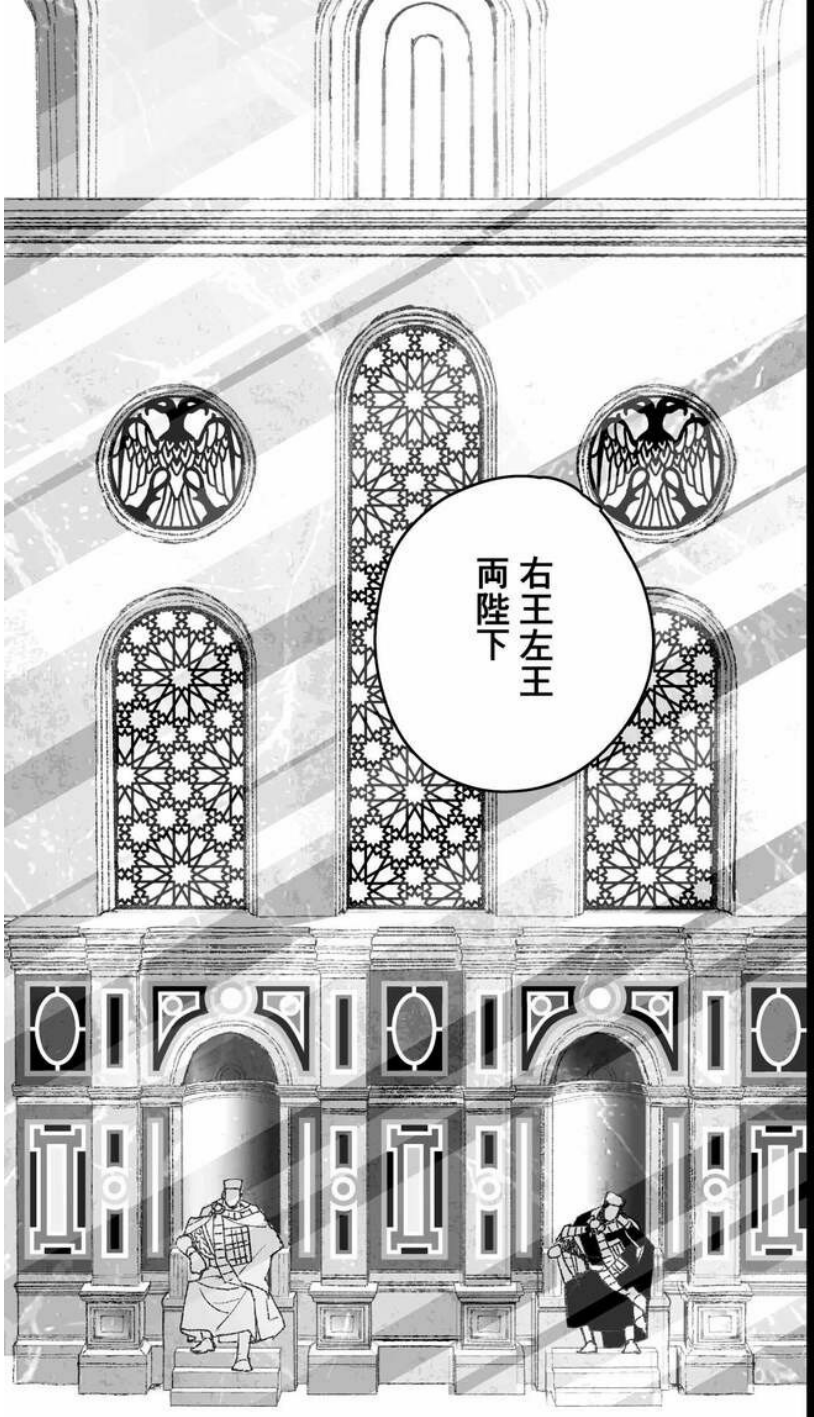
貴方の血族の中より
我々同様の肉体を備えた先祖返りをした者が発生した時は
速やかに当方に送還するべし

貴方の王国が興ったのち百年余
我が二人の息子が成人する頃
花嫁を最低二人供貢するべし

しかしならず者は生かしてはおかない
我々は人の胸裏をあばく

この契約は貴方の王国が滅亡するまでとする

モレクの密約









わかった
下がれ


「モレクの密約」は
呪いそのものだな
さもなくば
建国にまつわる
秘密を暴くという
我が国の屋台骨を
揺るがす
およそ恫喝だ
あれらの邪神は心を読む
迂闊に近寄ることも
出来ない
不幸にして我が代で
その「先祖返り」の
兆候をみとめる子が
生じてしまった
オーガスタ…我が娘
別れを惜しまぬよう
こちらを親とも伝えず
隔離して育てたが


そして「二人の花嫁」の条件
モレク神は五千年生きて
お隠れになったというが
それも密約を交わした直後だ
そもそもその
息子たちは
この密約を把握
しているのか


その「息子」だ
すべての元凶
狼とウサギが
交わって
子を生せる
わけもなし
だが…


もとより繁殖に
多くの女を消耗する神族を父に
稀有にも人として生まれた
初代右王の悲劇を繰り返さぬよう
モレクの信仰を禁じた
右家の血統の問題を起点に
左家が後見を担い
我が国が左右二君主制を布いた
所以でもある


…真に
憐れなのは
そなたの娘だ
左王よ
成長速度は常人並みといえ
モレクの血を
目覚めさせた
我が娘を憐れんで
ならば密約の花嫁にと
そなたの娘を
差し出してくれたが


右王家との
婚姻を禁じた結果
左王家は純血の常人
涙の国の主と
婚姻しようにも
神人と常人の
交接による致死率は
百に近い
…エグザビア
優しい娘だと
聞いている

囚われたのち
どのような処遇を
受けるまでは
わからない



「最悪の結果」も
覚悟しなければならない

涙の国の主は
淫蕩な嵐と砂漠の
神だという

あとがき

オッスオラ５９。
掘骨先生の「夜に虚就く」みたいな漫画が描きてえな～俺もな～
と思い立って獣人と人間がセックスすると人間がケモ化するというシナリオで
描き始めたものの、同人サイトで獣姦禁止とかいう御触れが発布されたとかなんとか
すわせっかく描いたのに発禁になっちまうー！と下書きまでやってたのを全面改竄。
女の子たちも初代プリキュア＝t.A.T.u.がモチーフだったので
女の子たちの故郷をロシア（ビザンチン）風にしたら現実で戦争始まった…だとう…ウソやろ　こ…こんな事が　こ…こんな事が許されていいのか
労働者なので着手から完成までに１年以上かかりました。グスン

なお当初ケモ化がコンセプトだったので女の子のおっぱいが６つに増える予定が
ケモ化はしない事になったので単に盛られました。いいのか悪いのか。
人型になった事で話が膨らみ、このお話は上中下の上巻にあたります。



キャラ票

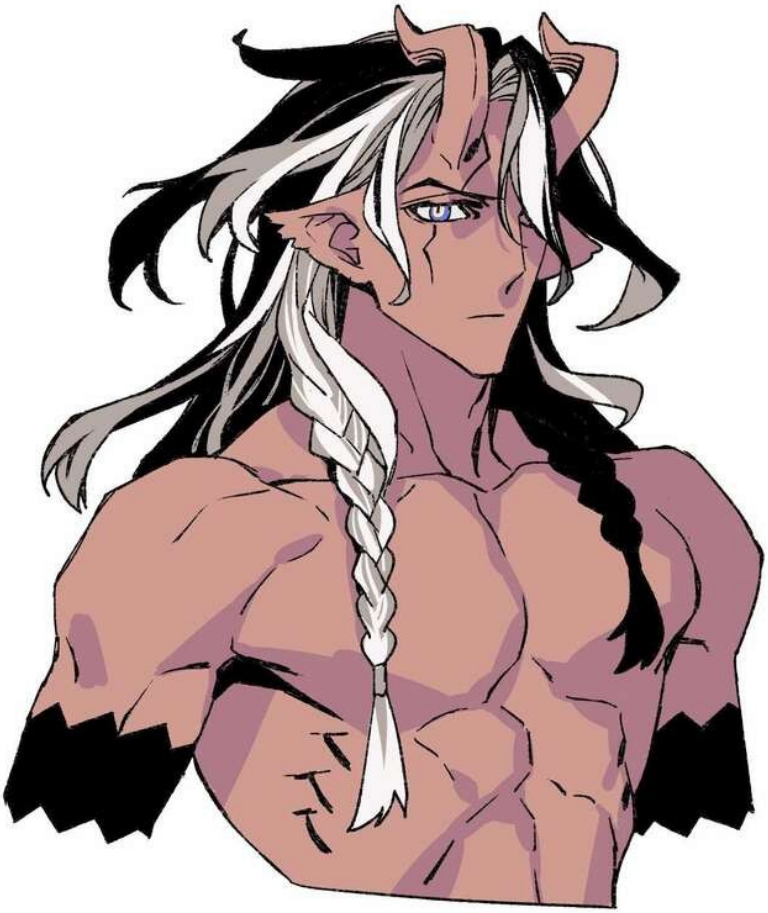
Xaviera



Augusta



Baal



Seth

